

報告タイトル

中国の政策決定過程における官僚組織間の競争と交渉：  
国家環境保護総局の事例と「使い捨ての同盟」戦略

Competition and Bargaining among Bureaucratic Organizations in China's Policy-Making Process:  
The Case of the State Environmental Protection Administration and the "Disposable Alliance" Strategy

氏名(所属)

劉 一鶴(慶應義塾大学)  
LIU Yihe (University of Keio)

要旨(800字程度)

中国の政策決定過程における官僚機構の役割とそれにおける交渉のダイナミクスは、中国政治を理解する上で重要な側面である。特に、共産党体制下での政策過程は、複雑で多層的な権力関係と官僚組織間の競争に特徴づけられ、その効率と効果は党の支配の正当性に直結している。先行研究は主に官僚機構における縦割りの競争を分析してきたが、本研究は横割り、すなわち同ランクの官僚機関間の競争に着目する。

本研究は、1998年から2007年にかけての国家環境保護総局の事例を通じて、比較的弱い位置にある官僚組織がどのようにして強力な官僚組織と交渉し、自らの政策目標を達成するかを分析する。環境保護総局は、その機能が形骸化していた組織から、この時期に多くの環境違反を摘発し、環境影響評価法に付与された拒否の権威を守り、組織の機能および存在の正統性を証明した。この集権のメカニズムは、官僚機構内の競争を観察する窓口となる。

本研究は、まずAllisonが提唱する官僚政治モデルを基に、中国の政策空間における官僚組織の権力構造とその力学を考察し、中国の党-国家体制下で官僚組織の交渉インセンティブを分析する。そして、国務院における環境保護総局の苦境と中国における非公式アクターの実態を解明することで、「使い捨ての同盟」の概念提起と本研究の射程を明らかにする。

本研究では、政策決定過程において特定の利益を一時的に共有する公式アクターと非公式アクター間の協力関係を「使い捨ての同盟」と定義する。これは、公式アクターと非公式アクター間の一時的かつ非制度的な協力関係を指し、政策決定やプロジェクトの達成後に解消される傾向がある。つまり、政策決定過程における弱小の非公式アクターの参加が、公式アクターである環境保護総局によって戦略的に操作される状況を指す。本研究では環境分野の3つの政策過程をケーススタディ研究の方法で分析し、「使い捨ての同盟」の形成を解析する